

藤原和博さん講演会

成熟社会の人生戦略

～「坂の上の坂」世代の後半戦に最も重要なこと～

坂の上に「雲」はなかった！！

年金、雇用、医療、災害……

男性 79 歳、女性 86 歳という平均寿命までの時間を、どう過ごすのか？

ベストセラー『坂の上の坂』で話題になった

「人生のエネルギーカーブ」を参加者自身に描いてもらいながら、

人生に役立つキャリア形成や人間関係の築き方など「藤原流生きるヒント」も満載！

きっと「目からウロコ」の連続になるでしょう。

と き **9月8日(土)** 14:00 ～ 16:00 (開場 13:30)

ところ **とりぎん文化会館 第1会議室**
(鳥取市尚徳町 101 - 5)

入場
無料



藤原和博さんプロフィール

1955 年東京生まれ。1978 年東京大学経済学部卒業後、株式会社リクルート入社。東京営業統括部長、新規事業担当部長などを歴任後、1993 年よりヨーロッパ駐在、1996 年同社フェローとなる。2003 年より 5 年間、都内では義務教育初の民間校長として杉並区立和田中学校校長を務める。

著書は『人生の教科書 [よのなかのルール]』(ちくま文庫)、『リクルートという奇跡』『つなげる力』(ともに文春文庫)、『35 歳の教科書』(幻冬舎)、『父親になるということ』(日経ビジネス人文庫) など多数。

※ 要約筆記、手話通訳が必要な方は、**8月31日(金)**までに、裏面の問い合わせ先へご連絡ください。

※ 託児を希望される方は、**8月28日(火)**までに、裏面の問い合わせ先へご連絡ください。

司馬遼太郎さんの名作に小説『坂の上の雲』があります。

明治維新から日露戦争の時代の日本人の心意気を、見事に描いた作品でした。この小説がどれくらい日本人に大きなインパクトを与えたかというのは、シリーズ累計で 1900 万部という驚異的な部数にも表れていると思います。それだけ日本人は、あの『坂の上の雲』の時代が好きなのではないか、と思うのです。

あの時代、人々の視線の先にはロマンがありました。夢がありました。そして目の前の坂のうえには、見上げる「雲」がありました。(中略)

ところが、現代に生きる私たちはそうはいかないのではないのでしょうか。例えば 60 歳から 65 歳で仕事をリタイヤしても、死ぬまでの時間はまだまだ相当にあります。平均寿命を考えただけでも、20 年、30 年とあるのです。『坂の上の雲』の時代に比べて、人生が圧倒的に伸びました。(中略)

とすると、坂の上にあるのは、『坂の上の雲』の時代のような、ぼんやりした「雲」では、もはやないのではないかと。私はそんなことを思うようになりました。

待ち構えているのは、実は「雲」ではなく、次の新たなる「坂」なのではないかと。(中略)

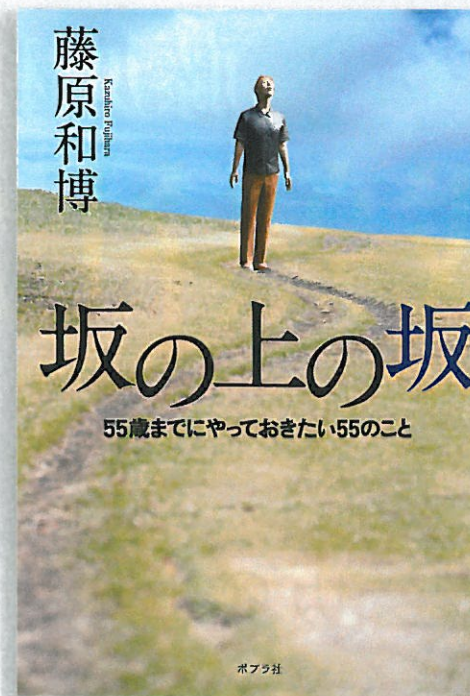
「坂の上のさらなる上り坂」は、ビートルズが歌った「ロング・アンド・ワインディング・ロード」かもしれません。その長く曲がりくねった道を、楽しく歩いて行くことができるかどうか。それは、私たちがいかに視点を転換させられるか、にかかっているのです。

しかし、意識して行動できれば、「坂の上の坂」ももはや怖いものではない、とも思えるのです。

人生が終わりを迎える、その瞬間まで、ハラハラ、ドキドキ、ワクワクしながら。

顔をほてらせ、やや上を向きながら。

(「坂の上の坂 55 歳までにやっておきたい 55 のこと」 はじめに より)



■ 問い合わせ先

財鳥取市人権情報センター

〒680-0823 鳥取市幸町 151

TEL 0857-24-3125 FAX 0857-24-3444

Eメール info@tottori-jinken-joho-center.or.jp

主催／鳥取市・財鳥取市人権情報センター